

# ツマジロクサヨトウの発生に注意してください

多種の作物を食害するツマジロクサヨトウは、原産地であるアメリカ、侵入先であるアフリカや中国のトウモロコシにおいて、大きな被害をもたらしています。2020年には本県にも成虫が飛来し、一部のほ場では幼虫の発生も確認されたことから、今後、より広い地域で発生する可能性があります。生態についてご理解いただき、早期に発見して、適切に防除を実施しましょう！

## ツマジロクサヨトウ（学名：*Spodoptera frugiperda*）の生態について



雄成虫の前翅の模様がよく目立ちます。（農林水産省HPより）



幼虫頭部の「逆Y字」紋と網目模様、尾部の斑点がよく目立ちます。

【原産地】●南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯地域。

【特徴】●成虫は開張約37 mmで、雄のみが前翅に淡色斑と白斑を持ちます。

●終齢幼虫の体長は約4 cmで、頭部の「逆Y字」紋と網目模様、尾部の斑点がよく目立ちます。

【国内での発生】●本県を含む45道府県（2020年11月30日時点）。

【生態と被害】●幼虫が広範囲の作物を加害します。国内では、飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーンなどで発生が確認されています。

●幼虫が植物の葉、茎、花および果実を食害します。食害により葉に大量の穴があき、周りには糞が散らばります。特に、生育初期の柔らかい葉を好む傾向があります。

●成虫の移動能力は高く、県内各地のほ場へ分散する可能性があります。



葉に穴があき、周りに糞が散らばります。（農林水産省HPより）

## 調査と防除方法について

**調査** ●葉の食害痕や糞の有無を確認します。生育初期に食害されると被害が大きくなるため、ほ場の巡回を行い、早期発見に努めます。

**薬剤防除** ●薬剤散布が可能なほ場では、農林水産省作成の農薬一覧を参考に薬剤防除を実施します。周囲への飛散に注意し、株の上部までしっかりと散布します。可能な限り、若齢のうちに防除します。農薬使用時にはラベルをよく読み、適切に使用します。

農林水産省「ツマジロクサヨトウの防除に使用できる農薬一覧」（2020年11月30日確認）  
[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

**耕種的防除** ●**早期刈り取り**：収穫が可能な場合は、直ちに収穫を実施します。  
 ●**残渣すき込み**：収穫後、速やかに耕起し残渣をすき込むことで、残渣に残っている幼虫や土中のさなぎを防除します。